

ハバネロ友の会会員様

今年のハバネロは順調に育苗ができ5月の連休明けころにすべて定植が済み、早いものでは花もちらほら見えるようになってきました。

去年は初期の低温に悩まされましたが、今のところは順調に生育していると思います。

他の唐辛子も今のところ順調に生育していますので、8月からの収穫が楽しみです。

ハバネロ友の会事務局

ハバネロ順調に生育しています。

生産者グループと生育状況や栽培技術について勉強会をしています。



整然と植えられているハバネロそろそろ花が見えかけてきているものもあります。



篠ファームハバネロ担当

トピックス

新情報や季節
の話題イロイロ。
海外の話題も掲
載中。
メール会員募集
中。

目次:

事務局よりお知らせ	2
信州からの唐辛子便り	3
バン格拉ディッシュからの便り	4
MUTTSUNN通信	5
児島さん投稿	6
ハバネロ探検隊	13
ハバネロ料理	14

「ハバネロメルマガ会員」ご参加お勧めください。

ハバネロに関心を持たれておられる方がお近くにおられましたら是非お誘いください。
申込みは簡単で、ホームページより申込みに必要な事項をご記入頂き、事務局へお送りしていただくだけで登録完了です。また、いつでも退会出来ますのでお気軽にお申込みください。
メルマガ会員の方には特典も考えております。

http://www.shinofarm.jp/habanero_tomonokai.htm

会報誌の郵送ご希望の方は1年間分の郵送料と印刷代(モノクロ)・封筒代2,000円を申し受けますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。送金は郵便振替(払込取扱票)にてお願いいたします。

* 口座は 00900-7-122727 ハバネロ友の会です。
(振込み手数料はご負担ください。)

ハバネロ友の会事務局

会員の皆様の宣伝コーナー開設いたします。

ご自分の会社やお店の宣伝・自己紹介など、案内したい内容がありましたら
どんどん投稿してください。行政関係の方も投稿お待ちしております。
ハバネロ以外でも全く問題ありませんので、会報誌を活用していただけたら幸いです。
原稿の締め切りは、毎月5日までお送りいただけましたら幸いです。
当月の10日頃をめぐりに、会報誌に掲載して配信致します。
原稿の送り先は、事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にお願いいたします。

ハバネロ友の会事務局

「ハバネロなんでも質問コーナー」開設中

事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にご質問いただければ、直接ご質問者にお答えすると共に、承諾いただいた内容は直近の号でも紹介したいと思います。
匿名希望の方は「匿名希望」とお伝えください。

ハバネロ友の会事務局

信州からの唐辛子便り

信州大学大学院農学研究科 松島憲一

シャ・エマとヤンツェ・エマ

筆者がブータン王国で山菜類などの食用野生植物に関する現地調査を行ってきたことは本会報3月号にも書いたが、実はその調査結果の一部を、現在発売中の岩波書店刊の月刊誌「科学」6月号に「ブータン王国の山菜利用とGNH」^{注1)}という文章として掲載させていただいた。<http://www.iwanami.co.jp/kagaku/>

この掲載文内のコラム記事でも書かせてもらったのだが、筆者らがこれまでに現地調査^{注2)}したとことによると、ブータン国内で栽培されている主要な唐辛子品種は9品種あり、これ以外にそれぞれの地域に特有な地方品種も数多く存在していることが解っている。中でもブータン西部「シャ」地方の シャ・エマ と呼ばれる唐辛子在来品種は特にブータン人に人気がある。現地の友人によると辛さが程良く、辛味の中にも甘みがあって非常に美味しい唐辛子との評価であった。この唐辛子の特徴の一つは果実先端が丸くなっているか、少し凹んでいることであるが、市場でシャ・エマとして売られている唐辛子の中には先端が尖っているものもみられた。おそらく、これは最近の物流や地域農業の発展により、在来品種以外の唐辛子品種が同地域で作られるようになったことによる、品種間の自然交雑が原因であると思われる。地域の宝といえる在来品種の保護維持は、地域の農業の発展につながるのので、是非、きっちりと品種の保護・維持してもらいたい。



さて、ブータンの東部には、もう一つ特徴的な在来唐辛子品種が存在する。タシ・ヤンツェ県の ヤンツェ・エマ、別名ウルカ・バンガラ である。この唐辛子品種、世界有数の辛いもの好き国家ブータンにおいて、まさかの低辛味品種なのだ。タシ・ヤンツェの食堂で干し肉と煮た「パー」という料理にしたこの唐辛子品種を食べたことがあるが、味も形も ししとう に似ており、辛さも非常に弱かった。あまりに似ているので、誰かが日本の ししとう の種子をブータンで植えたのではないかと疑ってしまうほどであるが、生の果実をじっくり見てみる、ちょっとは異なるようである。いずれにせよ、この品種もタシ・ヤンツェ県の地域特産品として人気がある品種とのことであった。

このような、多様な唐辛子品種がブータンに存在することからも、同国の唐辛子文化の奥の深さを感じさせられる。

注1) 松島憲一.2011.ブータン王国の山菜利用とGNH.科学. 81(6):548-551

注2) K.Tsering, K.Matsushima *et.al.* 2010. Local varieties of chili pepper (*Capsicum* spp.) in Bhutan. 熱帯農業研究. 3(別1):75-76.

筆者サイト「喰いしごき調査委員会」(<http://saitamaya.net/carlos/>)

「喰いしごき調査委員会mixi版」(http://mixi.jp/view_community.pl?id=656317)

twitter (<http://twitter.com/#!/CarlosThePepper>)

バングラデシュからの便り 6月号

ついに江崎グリコ社から発売。ジョロキア商品。夏限定。

江崎グリコ社公式ウェブサイト

ビーフカレーLEE辛さ30倍 ジョロキアブレンド

<http://www.ezaki-glico.net/lee/lee30.html>

赤はるさめスープ ジョロキア辛味増強パウダー付き

<http://www.ezaki-glico.net/soup/red.html>



辛味に慣れている私にとっては
それ程辛くはない。
普段バングラデシュでは
100倍カレーを食べているのだから。
来年は辛さ100倍LEEカレーが
発売されないだろうか。。

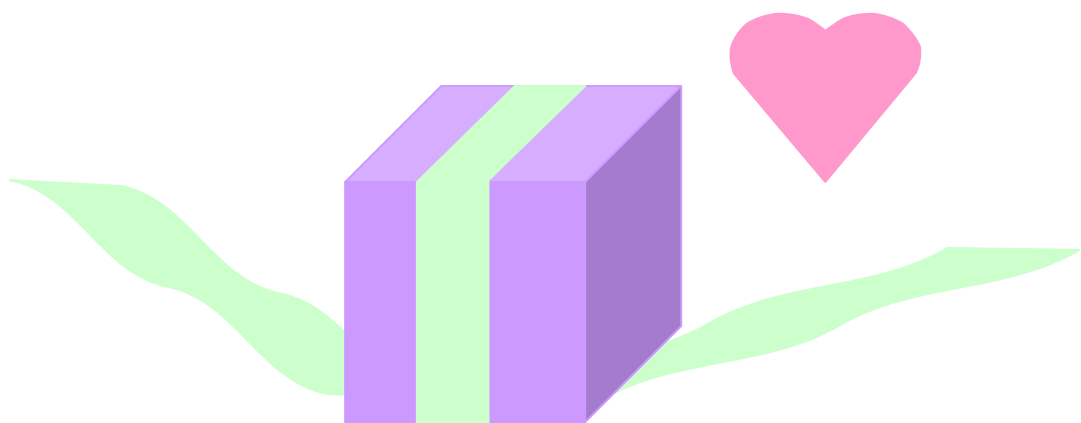
Ryo Takeuchi

MUTTSUNN通信

「アトポーシス」と「ネクローシス」今、気になっている単語です。まだ勉強中ですが、アトポーシスは不要なものが自然と消滅する自然死、それに対してネクローシスは負傷などによって死ぬ不慮の死を意味するそうです。科学雑誌を読んでいて急に目に入った単語です。ギリシャ神話に出てきそうなこの言葉の響きが素敵で、ついつい惹かれました。読み進めるとこの二つの意味は一見まるで反対のようなのに、よく考えるとつながっています。老いがきて老衰するのがアトポーシス、では癌などはどうなるのでしょうか？病気による死ということでネクローシスに思えますが、不要な細胞が死んでいくという意味ではアトポーシスとも言えます。まあ科学的なことはいのちの的外れなことを言っているかもしれませんが、ひっかかるのは「不要なもの」はどのようにして生まれるのかということ。初めから不要なものが存在するならアトポーシスという概念自体が存在しませんよね。そう考えるとネクローシスの線上にアトポーシスが発生すると考えるのが自然ではないでしょうか。

「不要なもの」といえばゴミ。日本人は一日に1キロ以上ものゴミを出していると言われてい
ます。ペットボトルにお菓子やお弁当、過剰包装された贈り物・・・先月友人の誕生日にプレゼントをしたのですが、箱の中にまた箱、となかなかプレゼントにたどり着けないマトリョーシカのような包装に思わずみんなで笑ってしまいました。

プレゼントは丁寧に包装されていると、心のこもった思いが表現されているようでその心遣いが、やっぱりうれしい・・・最終的には捨てられてしまうと分かっているものも不要になる前はそれなりに意味のある必要なものなんですよ
ね
ゴミは減らしたいけれど・・・悩ましいです。



mutsumi

ハバネロ通信 5月号

児嶋きよみ (OFFICE Com Junto主宰・大学院生)

亀岡交流活動センターglobal session講座より

ゲスト:Glory Chakmaさん

Coordinator:児嶋きよみ

5月7日(土)10:30 12:00 交流会館で開催された、global sessionから

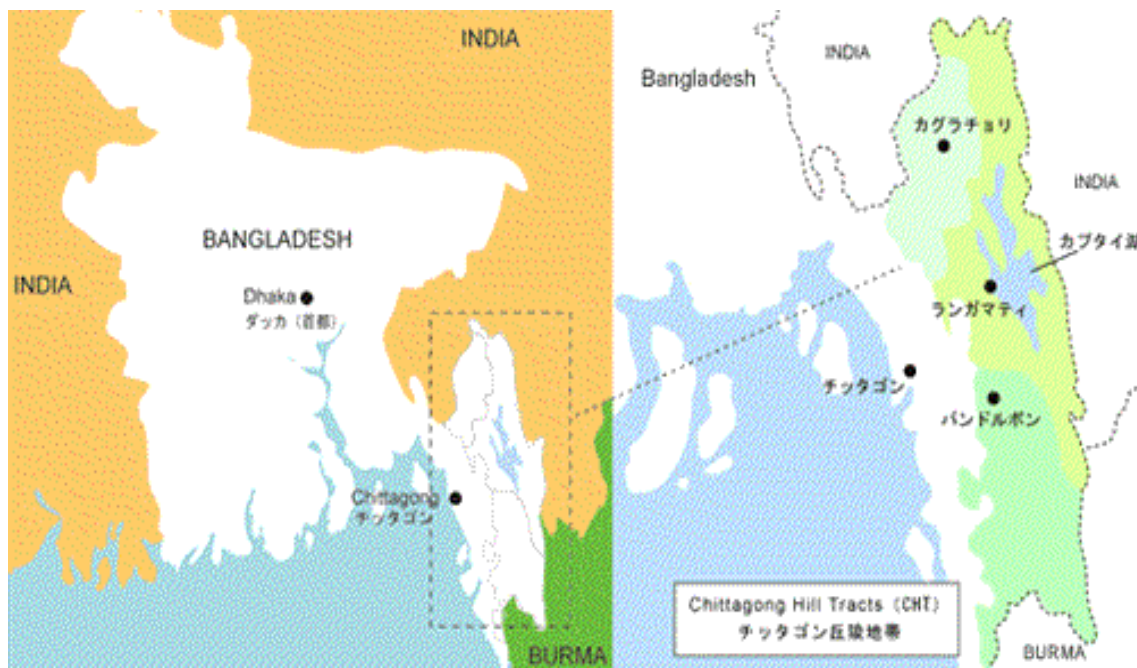
Bangladesh シリーズ第2回

Gloryさんは、World Festaなどによく来ていただき、おいしい Bangladesh のカレーなどをいつも料理してブースで提供していただいている方なので、ご存じの方もたくさんいらっしゃいました。でも正式なお名前をお聞きすると、Glory ChakmaのChakmaというのは、名字というわけではなく、民族の名称なのだそうです。Bangladesh のChakma族についていろいろなることを知り、無知であったことがらの多さに、皆愕然としていました。以下の記事を手元に置いて同時に読んでいただくようお願いしながらsessionは、始まりました。今回の英文記事も後半に添付しています。

亀岡国際タイムズ2011年春号より

「 Bangladesh のチッタゴン丘陵問題」

Gloryさんの英文の原稿を児嶋が日本語に編集した記事です。



巨大河川ガンジス河が運ぶ土砂で造られたデルタ地帯の Bangladesh の中で、チッタゴン丘陵地帯(Chittagong Hill Tracts)は Bangladesh 東南部に位置し、アラカン山脈につながる Bangladesh 唯一の丘陵地帯です。国土の10%にあたるこの場所では、古くからモンゴロイド系の先住民が焼畑農業を中心に生活を営み、デルタ地帯に居住する多数派の

ベンガル人とは異なる文化を営んできました。この地域に住む人々の起源については不明な点が多く、インド北部、中国南部の地域から南下してきた民族とビルマ方面から北上してきた民族が入り混じって居住していると思われます。人口の一番多いチャクマ族に続き、マルマ族、ムル族など11の民族、約60万人がここで今も生活を営んでいます。

6世紀から16世紀にかけて、モンゴロイド系の民族が争い、交互にこの地域の支配権を争ったと言われていました。同時にベンガル平野を制圧したムガル帝国が、16世紀くらいからこの地域にも勢力を伸ばしますが、大きな海戦の末 1665年にムガル帝国は、チッタゴン丘陵を支配下に置きます。彼らは直接統治せず、納税のみを迫り、地域の統治はトリブラ族、アラカン民族、そしてチャクマ族などがそれぞれの勢力に合わせて行なっていたようです。

英国植民地時代

1760年、ムガル帝国は統治権をイギリス政府に手渡し、この地域は英国植民地の一部となりました。このチッタゴン丘陵地帯は、緩衝地帯としてベンガル平野部と区別され、分断政治を計る政策の一環として外部の人々の流入を禁じられていました。そのため、固有の文化を守ることができました。

パキスタン時代

1947年のインドとパキスタンの独立に際して、この地域の人々は、インドもしくはビルマの一部として独立することを望みましたが、そうはなりません。そのため、東パキスタン時代(1947年～1971年)には、彼らと政府との緊張関係が高まり、憲法改正の末1900年マニュアルの権限が徐々に制約されていきました。

1960年から63年にかけてカプタイ水力発電ダムの建設がおこなわれました。そのため、10万人近い先住民族が移住を余儀なくされました。そのうち6万人は十分な補償が得られなかったと言われていました。また平野部からもベンガル人が徐々にこの地域に移り住むようになり、緊張感が高まっていきました。

バングラデシュ時代から現在まで

バングラデシュ時代(1971年～)に入り、先住民族リーダーは、1900年マニュアルにあった権限回復を訴えますが、完全に新政府から無視されます。抑圧の危機に立たされた先住民族リーダーは、こうした動きに対抗するため72年に政治団体であるチッタゴン丘陵人民連帯連合協会(Parbattya Chattagram Jana Sambati Samiti, PCJSS)を結成しました。さらに73年にはシャンティ・バヒニ(平和軍)という武装部門が結成され、バングラデシュ政府軍と事実上戦闘状態に入りました。この地域への外国人の立ち入りが禁止され、軍が日常的に駐屯し、紛争は92年の休戦宣言まで続きました。

さらに79年になると、政府は平野部のベンガル人を入植させる政策を進め、紛争は深刻度を増していきました。83年までに約40万人近いベンガル人が政府からの土地、現金、食糧配給を前提に入植し、先住民族と入植者の数は、ほぼ1対1という状況にまでなっていました。ベンガル人の入植者の存在は、この地域の政治をさらに複雑にしました。紛争が続く中、政府による大型開発事業が展開され、多くの先住民族は開発事業のため立ち退きを余儀なくされていきました。

紛争の激化によって国外に一時非難した先住民族の土地をベンガル人入植者が不法占拠するケースも目立ち、土地を失った先住民族は12万世帯に上ると言われています。さらに入植者との小競り合いなどがきっかけになり、過去13回を超える虐殺事件が発生し、殺害を恐れて約6万人の先住民族がインドに逃れ難民になりました。問題解決がきちんとされない理由として、軍や警察の入植者への意識的な加担があるとされています。

和平協定以後

和解を模索する話し合いが何度かもたれた末、1997年12月にPCJSSと政府の間で和平協定が結ばれました。難民の安全な帰還、土地の返還、軍の撤退、先住民族を優先した政治体制などを条件に、2,000人近いシャンティ・バヒニの武装解除が行なわれ、難民も無事帰還しました。チッタゴン丘陵に平和が訪れるのではないかと多くの人は希望を持ちましたが、現時点に至っても和平協定の多くが実施されておらず、政府と先住民族との間の緊張感はまだ続いています。

弱体化を余技なくされた先住民族の人々は、その後なんとか土地を奪おうとするベンガル人入植者の襲撃や弾圧が続くようになっています。土地収奪から発生するトラブルは毎日のように発生していますが、その中でもマハルチャリ事件(カグラチャリ県 2003年8月)、マイシュチュリ事件(カグラチャリ県 2006年4月)、サジェック事件(ランガマティ県 2008年4月)等、死傷者が出る大きな事件が発生しています。

ジュマ・ネット より

5月のsessionから

バングラデシュは、人口の96～97%は、ベンガリ族でその92%は、イスラム教徒であり、残りの4～5%は、ヒンズー教徒のベンガリ族です。それ以外の2～3%が仏教徒・キリスト教徒・ヒンズー教徒などです。

Gloryさんは、少数民族の仏教徒でバングラデシュ東部の丘陵地帯のチッタゴン地帯がふるさとです。現在は、夫君が京都大学の博士号をこの3月に取得し、ようやく自分の研究も本腰を入れて取り組むために、同じく京都大学の研究生として大学院への入学を目指しています。もともとは、バングラデシュの大学の医学部出身で理学療法士として勤務していました。本国で成長していく中で、その資格を得るまでには、上を目指すたびに何倍もの競争をくぐってこられたそうです。ご本人は、大変やわらかな物腰の日本人によく似た雰囲気

の女性です。けれども、バングラデシュの歴史を省みると、マイノリティとしての偏見と闘って来られた強さが浮かび上がってきます。学校からの帰り道で「chakma・チャクマ」と罵声を浴びたり、男の子でも怖くて家にこもりきりになってしまった人も多いそうです。

上の記事にもありますが、バングラデシュは、ヒマラヤ山脈から流れ来る巨大なガンジス河のデルタ地帯にあり、洪水が頻繁に起こる平野部がほとんどの国土です。東南部に位置するチッタゴン丘陵地帯はバングラデシュ唯一の丘陵であるため、1947年～71年の東パキスタン時代・バングラデシュ時代から現在にかけて、宗教や民族のちがう人々が多く住むこの地域への入植政策が勧められてきました。

この政策には軍隊が動員され、突然家や耕地が焼き討ちに会い、寺院に設置されていた仏像が数多く焼けただれて放り出されている写真があります。焼け出された先住民族の住所は、登記がされていても二重登記になる例も数多くあるそうです。

家も土地も失った先住民族の人々は、ジャングルに逃れ、子どもの教育を願い、この地域の政治に参加できるような人材を作りたいと願っているそうです。ですが、家も耕地も失い、子どもの教育にけるお金もないのが現状のようです。

Gloryさんご自身は、この自国の正確な情報をできるだけさまざまな人に知ってほしいと願っていて、日本でこのように発表できる機会があるのが、この上もなくうれしいとおっしゃっています。お話をもっと聞きたい方は、児嶋までご連絡ください。

連絡先: 児嶋きよみ e-mail kiyomi@kkoryu.com
自宅: 0771-23-6579



Chittagong Hill Tracts and Life

- Glory Chakma.

The Chittagong Hill Tracts (CHT), is located in the south-eastern part of Bangladesh (former East Pakistan) with an area of 13,295 km² and only mountainous region of the country, is widely known for its unique geographical location and magnificent picturesque mountain landscape. The CHT is the traditional home of twelve ethnic groups of Indigenous people collectively referred to as the hill people or, Jumma,. The vast majority of the hill peoples are Buddhist, although a significant number follow Hinduism Christians and Animist.

The Chittagong Hill Tracts consist of 3 hilly districts-Rangamati, Bandarban and Khagrachari, was once called the Karpas Mahal for abundant produce of Karpas or cotton. It was in Mughal period (late 17th and early 18th centuries, and ended in the mid-19th century) and, to some extent, British colonial period (1858-1947). Life was very simple in those days. The hilly people would produce almost everything necessary for subsistence in their Jum field and from the forest.

In British colonial period (1857-1947), the British followed a policy of people non-interference, in the internal affairs of the CHT-was 'CHT Regulation of 1900', to recognize the CHT as an area distinct from the rest of the country, as a matter of policy its administration, including that pertaining to land matters.

Post-partition period (1947-1971), Two hundred years of British colonial rule in **India** came to an end August 1947 with the emergence of two independent countries **Pakistan** and **India**. The development and changes that followed the partition of India in 1947 have had dreadful implications for the indigenous people particularly in the areas of land dispossession and disturbance to their economic and cultural life, it results -

() Change of the special status: Following the independence of Pakistan (east and west) in 1962 formulation of new constitution, the indigenous people began to lose their tradition rights, power of the ethnic leadership and systematic but clandestine colonization of the CHT by Bengalis began and in 1964 the status of the CHT as excluded area was changed to ethnic area indicating the area as the home of ethnic people.

(ii) Creation of hydro-eclectic project (1957-1962): A hydroelectric power plant in the Karnaphuli River of Rangamati district, which covering a huge area of 655 sq. km, submerged houses of 18,000 indigenous families as displacing approximately 10,000 people from their homes and submerged 21,950 hectare of arable land. In the case of dam, people were uprooted from their ancestral homes, their professions changed, living became difficult and the future was uncertain.

Bangladesh period since 1971: Bangladesh emerged as an independent state in 1971 from Pakistan. In 1976, then government declared the problem of the CHT originated from underdevelopment and a good number of development programs or projects were adopted in the CHT. Many of these programs and policies had direct impacts on land rights of the indigenous people. Two of the major programs were particularly important.

(i). Population transfer program: The amendment of rule of CHT manual, from 1976-1997, Government of Bangladesh settled 400,000 bengali muslim families from plain land in the CHT under government sponsored scheme for political purposes. **That affects** every aspect of the Hill peoples` life and society

including environment. This happened when the Hill people were still reeling under the impact of the Kaptai dam. It complicated the problem of the Chittagong Hill Tracts to a greater extent. Although the Bengali settlers were promised lands and resettlement in the Hill Tracts, they could not be given so, as lands were not available at all. As a result, there were frequent attacks during this period led by Bengali settlers against Jumma villages, often with army involvement. Meanwhile, the Jumma indigenous inhabitants were engaged in a simmering armed conflict against the Bangladesh army. Apart from the fact that the settlers bengali were used by the military as human shields in their so-called counter insurgency operations against the now-defunct Shanti Bahini (Supported by CHT hilly people). Massacres, killing, deadly violence and communal attacks on the Hill people were often followed by seizure of their lands. 100,000 of Jumma people fled their homes and scattered throughout the hill districts or fled to neighboring India as refugees to escape the fighting. Rest of hilly people were pushed further into the remotest hilly sides **despite the 1997 peace accord**, clashes between the Bengali settlers and Jumma inhabitants have continued .

(ii) Militarization in the CHT (400 army camp): Another policy that has had grave repercussions from the indigenous peoples, has been the government counter insurgency strategy in the CHT. The CHT Commission described the CHT a military occupied area. The military dominates all sphere of life. The involvement, and the influence, of the armed forces is to confined to security matters, but extends to socio-economic issues. As a major thrust of the counter-insurgency strategy has focused on relocation and resettlement of the indigenous people and thus many were forced to leave their lands and their homes and move to designated areas where they remained under military control and surveillance. The Bangladesh army occupied lands of many indigenous people to set up army camps without any compensation, financial or otherwise.

The peace accord of 1997: After over twenty years of ethnic violence, the Government of Bangladesh and Jana Sangati Samiti signed a Peace Accord on December 2, 1997. The accord provides limited autonomy to the indigenous peoples of the CHT.

Present situation in 2011:

The 1997 CHT Peace Accord remain inactive

The 13 ethnic group's indigenous Jumma people still have no constitutional recognition in Bangladesh.

Population transfer programme, massacre, genocide, massive communal attack to Jumma indigenous villages and destroying religious temple, torture, rape, Land grabbing, humans right and peace are deadly violating by Bengali settlers often supported by Government military.

Land grabbing has become a perennial and ever-present problem in the Chittagong Hill Tracts, with thousands of acres still occupied by the bengali settlers. Very recently **last 17th of this month,2011** bengali settlers attacked 6 Jumma villages 95 houses burnt down,, killed and still missing 4 people, destroyed temple to grab land at the presence of militaryBut, the victims are still in injustice .

Bengali :- In Bangladesh majority of citizens (96-97%) are known as Bengali, 92% are Muslim Bengali and 4-5% Hinduism Bengali , rest of 2-3 % are Buddhist, Christian, Hinduism and Animism.

6月のglobal session

期 日 : 6月25日(土)

時 間 : 10:30 ~ 12:00

場 所 : 亀岡市交流会館

ゲスト : Paul Bushellさん (南アフリカ出身・英語指導助手)

Coordinator : 未 定



ハバネロ探検隊 ぽてちいろいろ



(; -)...ン?

「あまくち暴君ハバネロ」からさひかえめ食べやすい!って……?

ハバネロを80%カットしたって、それ暴君じゃないじゃん。

つつこみながらもm()mアーン

…サイズはちょっとこつぶ。

味は、確かに辛さ控えめ。旨味はすぐ出ている。

しかし……「あまくち」の言葉につつこみながら買ってしまう自分がかわいいかも…(*ノ-;*)



暴君ハバネロもだが、

だんだん暑くなってきて、コンビニには辛いお菓子がイロイロ並んできた。



Yamayoshi ポテトチップス「島とうがらし味」

沖縄の島とうがらしを使ったポテトチップス、

少し酸味を感じるストレートな辛さが、さわやかに感じる。



Yamayoshi 大人向け辛い梅味「ポテトチップス」

最初は甘みと酸味の梅干の味、何が大人向けで辛い梅味なのかと思ったら、後からピリッと唐辛子の辛味がくる。さっぱりした後味だ。

ポテトがギザギザカットなので厚みがあり、しっかりした食感で美味しい。が、一袋50gと少ない。あっという間に完食。



ナビスコ チップスター「ホットペッパーソース味」

ホットペッパーというわりにあまり辛くない。想像している味と違う感じで、少し後味が残る。期待しすぎると「うーん？」かもしれない。が、まあまあ、の美味しさかな。



まだまだ、これから。

新商品に目が離せない。

ハバネロ友の会 事務局

〒621-0008
京都府亀岡市馬路町狐瀬20-1
篠ファーム内

info@kyoto-habanero.com

Fax 0771-24-7885



「ハバネロなんでも質問コーナー」開設中

事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にご質問いただければ、直接ご質問者にお答えすると共に、承諾いただいた内容は直近の号でも紹介したいと思います。
匿名希望の方は「匿名希望」と伝えてください。

会員の皆様の宣伝コーナー開設いたします。

自分のところの会社やお店の宣伝など、案内したい内容がありまましたら是非、投稿してください。行政関係の方もどんどん投稿してください。

ハバネロ以外でも全然問題ありませんので、活用していただけたら幸いです。
原稿の締め切りは、毎月未までに頂きました原稿は、翌月の10日頃をめどに、会報誌に掲載して配信致します。

原稿の送り先は、事務局(info@kyoto-habanero.com)宛にお願いいたします。

ハバネロ友の会事務局

ハバネロ料理コーナー

「鱈のトマト煮ハバネロ味」

材料

鱈の切り身
トマト
塩コショウ
白ワイン
ハバネロソース
バター

作り方

鱈に塩コショウをしておく。
フライパンを熱しバターを入れ、そこに鱈を入れる。



トマトを乱切りにしたのを入れ、ワイン、ハバネロソースを加えて味をみる。

鱈の代わりに鯛とかでも良いです。